

平成21年11月30日

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### I 調査の概要

#### 1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成21年4月21日（火）

#### 3 調査対象

第6学年

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	139人	国語B	139人
② 算数A	139人	算数B	139人

#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

- ・ 国語 A（知識）の平均正答率は全国平均を下回っている。正答数の分布状況は頂点が全国では14問であるのに対し15問である。
- ・ 国語 B（活用）の平均正答率は全国平均を下回っている。正答率の分布状況は頂点が全国と同じで5問である。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語 A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	68.3	69.2	68.0
	書くこと	4	84.0	87.3	85.4
	読むこと	2	68.0	70.6	68.7
	言語事項	12	59.4	63.3	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	68.3	69.2	68.0
	話す・聞く能力	1	68.3	69.2	68.0
	書く能力	4	84.0	87.3	85.4
	読む能力	2	68.0	70.6	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	56.4	63.3	64.2
問題形式	選択式	5	78.3	81.6	80.1
	短答式	12	61.5	65.3	65.9
	記述式	1	68.3	69.2	68.0

##### 【国語 B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	52.1	62.8	61.3
	書くこと	2	11.2	15.6	14.5
	読むこと	3	51.8	59.3	56.5
	言語事項	2	46.8	61.5	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	37.8	48.1	46.0
	話す・聞く能力	5	52.1	62.8	61.3
	書く能力	2	11.2	15.6	14.5
	読む能力	3	51.8	59.3	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	46.8	61.5	59.7
問題形式	選択式	2	62.2	67.8	65.8
	短答式	2	43.5	49.7	48.7
	記述式	6	37.8	48.1	46.0

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区別の傾向と課題

### 【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は全国平均とほぼ同じである。
- B 領域の平均正答率は全国平均をかなり下回る。
- B 作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する設問の正答率は、この領域で最も低い。目的や意図が伝わるように話の組み立てを工夫しながら説明することに課題がある。

### 【書くこと】

- A 領域の平均正答率は全国平均をやや下回る。
- B 領域の平均正答率は全国平均を下回る。
- B 報告文を読み、メモの中に調べた内容の1つめを書く問いの正答率が、この領域において最も低い。調べる内容を見通して、必要な事柄を整理することに課題がある。

### 【読むこと】

- A 領域の平均正答率は全国平均とほぼ同じである。
- B 領域の平均正答率は全国平均を下回る。
- B 著者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く設問の正答率は、この領域で最も低い。目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることに課題がある。

### 【言語事項】

- A 領域の平均正答率は全国平均を下回る。

## 国語に関する児童質問紙調査の状況

### 《傾向》

- 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりかなり高い。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均より高い。
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均より高い。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりかなり高い。
- 「解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」に「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合は、全国平均より高い。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均より低い。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均より低い。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりやや低い。
- 「読書は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりかなり低い。

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

・話し合い・インタビュー・スピーチ・ディベート・パネルディスカッションなど、目的や相手に応じて話したり聞いたり、話し合ったりする活動を、6年間に系統的に位置付け、繰り返し指導する。また、日常から話し手の意図を考えながら話を聞くことを徹底する。

### 【書くこと】

・「書くことの日常化」を図り、書くことへの抵抗感をなくす。そのために、授業やそれ以外で、意見や感想をまとめる・教材文の内容を要約する・日記・依頼の手紙や通知文を書くなど、書く活動を多く取り入れる。また、それらの書く活動を通して、「目的に応じた書き方」を身に付けることができるように指導する。

### 【読むこと】

・音読を重視し、授業でも方法を工夫しながら繰り返し読ませ、正確に文章を読む力をつける。

・読み取りの力をつけるために、多様な情報や意見に触れる機会を増やす。また、文章中の表現について言い換えたり、自分の言葉でまとめたりするなど、目的に応じて必要な情報や内容を整理したり、取捨選択したりすることができるように指導する。

### 【言語事項】

・漢字指導を工夫し、漢字の成り立ちや意味・用法など興味を持って学習できるようにする。また、既習の漢字を積極的に使うよう働きかけ、児童が漢字を書く機会を増やす。

・日頃から辞書を引く習慣をつけ、言葉の意味を考えることで同音異義語や同訓異義語を意識して漢字を使い分けることができるようにする。

### 【その他】

・国語の時間に学習したことが定着し、実生活に生かせるようにするために、各教科や総合的な学習の時間との関連を一層図る。また、全学年を通しての共通理解を図り、指導の一本化を図る。

## 2 算数

### 全体的な傾向

- ・算数 A（知識）の平均正答率は全国平均をやや下回り、正答率の分布状況は頂点が全国17問で本校も同様である。
- ・算数 B（活用）の平均正答率は全国平均より低い。正答率の分布状況は頂点が10問で、全国は、9問である。

### 【算数A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	9	83.9	84.4	82.8
	量と測定	3	76.5	78.4	78.5
	図形	3	76.7	82.7	81.3

	数量関係	3	57.3	67.0	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての表現・処理	12	75.1	78.7	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	80.9	83.1	80.8
問題形式	選択式	5	77.8	81.7	76.7
	短答式	13	76.7	79.6	79.5
	記述式	0			

### 【算数B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	6	51.9	56.8	55.8
	量と測定	6	56.4	61.1	59.9
	図形	4	53.6	57.3	56.4
	数量関係	4	45.7	57.2	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	10	41.9	47.0	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	69.6	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	62.6	69.3	68.9
	短答式	7	57.3	64.4	63.7
	記述式	5	34.2	37.8	36.8

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

### 分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

#### 【数と計算】

- A 領域の平均正答率は、全国平均より低い。
- B 領域の平均正答率は、全国平均より低い。

#### 【量と測定】

- A 領域の平均正答率は、全国平均より低い。
- B 領域の平均正答率は、全国平均より低い。

#### 【図形】

- A 領域の平均正答率は、全国平均より低い。
- B 領域の平均正答率は、全国平均より低い。

#### 【数量関係】

- A 領域の平均正答率は、全国平均より低い。
- B 領域の平均正答率は、全国平均より低い。

### 《傾向》

- 算数に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は全国平均より高い。
- 「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問項目では、全国平均を5%上回る児童が肯定的な回答をしている。
- 「算数の授業で学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」という質問項目では、肯定的な回答をした児童が全国平均より10%以上高い。

## 指導改善のポイント

### 【数と計算】

- ・ 整数、小数、分数の意味やそれらの表し方について理解したり、計算の意味や演算決定について考える活動を意図的に取り入れるなど、筋道を立てて考える学習を充実する。

### 【量と測定】

- ・ 図形の面積を求める場面などで、課題解決に必要な情報を正しく選択する活動を重視する。

### 【図形】

- ・ 平面図形や立体などの実物を直接操作しながら考える学習を大切にし、体験をもとに性質や意味を理解できるようにする。

### 【数量関係】

- ・ 基準量と比較量を基に割合の大小の判断ができるようにするため、基準量が異なる場面を示し、比較量が同じで割合が異なる例を具体的な数値を用いて確認する。その際、割合を(比較量)÷(基準量)で求めたり、数直線や円グラフなどで表したりする活動を取り入れ、基準量と比較量の両方に着目して割合を考えられるよう指導する。

### 【その他】

- ・ 児童の発言に対して、その考えの根拠を丁寧に確認するとともに、ノート指導においても、考えた過程を書くよう継続指導する。
- ・ 自分の考えを言葉や式、図・表・グラフなど様々の方法で表現するよう指導する。

### 3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

#### 《傾向》

- 「朝食の摂取」や「家族と朝食・夕食を食べている」、「家の人と学校の話をする」という回答の割合が全国平均より高い。
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均より高い。
- 携帯電話の所持や使用の割合が、全国平均より高い。
- 「学校のきまりを守っている」という回答の割合が低い。
- 「新聞やテレビのニュースに関心がある」という回答の割合が低い。
- 「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思っている児童の割合は多いが、「好き」と回答した児童の割合は低い。
- 「家で学校の宿題をしている」、「家で授業の復習をしている」と回答した児童はやや高いが、計画的に学習を進めることができている児童の割合が低い。